ゆめ半島 千葉国体 2010

国体の記憶 ❾

引け目だった「左利き」が力に

橋本 妊壽奈（たすな）さん（囲護台）

本町生まれ。昭和25年、成田高校1年時に卓球競技千葉県選抜の一員として愛知国体に出場、ベスト8進出。在学中に成田山新勝寺で行われた囲碁「呉清源九段対藤沢庫之助九段」戦の余興では、藤沢九段と卓球で対戦し、話題となった

幼少時代からコンプレックスだった「左利き」。その左を武器に、卓球で県内トップレベルへと上り詰め、国体出場を果たした。「運動はどちらかというと苦手だった方。当時サウスポーは珍しかったので、そのおかげです」と控えめに振り返る。

左利きは、生活する上で不便が多く、今以上に「ぎっちょ」と疎まれていた時代。両親にも、字を書き箸を持つ手は右に直された。ただ、力を必要としたり、とっさのときには、どうしても出てしまう左。「小学校の裁縫の時間には先生の目を盗んで左手を使っていました。それが見つかると大目玉。皆の前でしかられ、立たされるんです」。駐屯兵への供出のための草刈りでは、鎌の向きが皆と違うため、「危ないから」といつも端に回された。「どうして左手じゃいけないの？」。疎外感から幼心に傷を受け、学校から遠ざかったこともあった。

そんな内気だった少女に転機が訪れたのは、中学2年生のとき。昇降口に置いてあった卓球台との出会いだった。友人に誘われるまま、見様見真似で打ってみると誰も返せない。「回転が右利きの人と違ったためでしょう。皆に『すごい』と認められたのがうれしくて」。初めて自分の「左」に自信が持てた瞬間だった。

高校に進学しても迷わず卓球部へ。尊敬できるコーチの下、必死に練習を積み、技術や体力をつけた。

活躍を見込まれ、高校1年生・若干15歳で成人女子県代表に選出。愛知国体に出場し、大学生や社会人を相手に奮闘した。

「『国体』といっても、盛大な見送りや出迎えがあるわけでもなく、決して華やかなものではありませんでした。出発のとき、おばあさんが『無事に帰ってきてくれればそれだけでいい』と泣いていたのが思い出されます。中学を出たばかりの女学生が一人遠方に向かうわけですから、今思うとちょっと寂しいですよね」

喜び、悔しさ、忍耐、そして何よりも自信。卓球から得たものは数知れない。

「左利きであることに引け目を感じ、何事にも後ろ向きだったわたしが、変われたのは卓球があったからこそ。懐かしい思い出に、今も本当に感謝しています」

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課（☎20－1503）へ。

編集後記

少子高齢化が進み、親の介護という現実に直面されている方も多いことと思います。共働き世帯も多い中、一緒に暮らしていても介護できる人は少ないのでは…。私も最近、親を見送ったばかりですが、果たして親が望む介護がどれだけできていたか疑問です。要介護状態になっても、速やかにサービスが受けられるといいですね。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年6月15日号 No.1149　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成21年6月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 花崎町760番地　電話22-1111（大代表）
広報なりたは再生紙を使用しています。